

第三次今帰仁村観光リゾート振興計画



平成 31 年 3 月 沖縄県今帰仁村

な き じ ん そ ん

はじめに

本村は、古宇利島をはじめ乙羽岳や羽地内海など美しい自然景観を有する豊かな自然に恵まれており、また、世界遺産である今帰仁城跡のほか多くの歴史・文化遺産があります。また、農業が盛んで、スイカ、マンゴー、今帰仁アグーなど県内でも知名度の高い特産品を産出するなど、観光振興に活かせる数多くの地域資源に恵まれております。

平成 30 年の沖縄県入域観光客は約 984 万人と過去最高を更新しており、本村にもさらなる観光客の増加が期待されます。



本村にとって観光産業は基幹産業になりつつあり、他の産業との連携強化によって村全体の活性化につなげることができる重要な産業となっています。

本村ではこれまで二次にわたる観光振興計画を策定し、各種観光振興施策の推進に取り組んできました。しかし、計画策定から 10 年が経過するなかで、2020 年より本部港に大型クルーズ船の寄港が予定されているほか、やんばる国立公園の世界自然遺産登録に向けた動き、外国人観光客の急増など本村をとりまく社会情勢が変わってきています。その変化を的確に捉えつつ、本村が目指す観光むらづくりとこれを実現する施策を示すことを目的に、第三次今帰仁村観光リゾート振興計画を策定しました。

その中では、「自然と歴史とロマンに満ち躍動するむら」を基本理念として、「自然の摂理を学ぶ今帰仁」「歴史とロマン香る今帰仁」「老いも若きも躍動する今帰仁」を基本目標に、自然環境の保全や活用をはじめ地域資源を活かした取り組みを位置付けています。

本計画に基づいて今後も県内有数の観光リゾート地として、美しい自然の中で、これに育まれた農水産物を味わい、歴史文化を体感し、地域住民が生き生きと暮らし、誰もが訪れたくなる持続可能な観光リゾート地の形成に積極的に取り組んでまいります。

結びに、本計画の「策定委員会」及び「ワーキング・グループ」の皆様をはじめ、計画策定に携わって頂きました村民・村内事業者の皆様、住民ワークショップにおいて貴重な意見やご提案をお寄せくださいました皆様に心から感謝を申し上げます。

平成 31 年 3 月

今帰仁村長 喜屋武 治 樹

第三次今帰仁村観光リゾート振興計画

目次

序章

1. 計画策定の背景と目的	1
2. 「第三次今帰仁村観光リゾート振興計画」の位置づけ	1
3. 計画の期間	1
4. 今年度業務フロー	2

第1章 今帰仁村の現状と課題

1. 観光の現状	3
2. 第二次観光リゾート振興計画の進捗状況及び調査内容	4
3. 観光振興に向けた課題	7

第2章 今帰仁村観光の将来像と目指す方向

1. 基本理念	10
2. 基本目標	11
3. 基本方向	12
4. 数値目標	15

第3章 施策と具体的な取り組み

1. 具体施策の内容	16
2. 重点プロジェクトの内容	26
3. 実施イメージ展開図	33

第4章 実現に向けた方策

1. 推進における役割	35
2. 推進組織体制	36

参考	37
----	----

序章

1. 計画策定の背景と目的

今帰仁村では、平成 21 年 3 月に「第二次今帰仁村観光リゾート振興計画」を策定した。これまでの間、「ワルミ大橋（県道屋我地仲宗根線）」の開通（平成 22 年 12 月）やテレビCM等をおして古宇利島の人気が高まるなど、本部半島の観光動線に大きな変化がもたらされてきた。平成 24 年には今帰仁村観光協会を設立し、観光産業振興への取り組みを進めてきたところである。

平成 29 年度に策定された「今帰仁村第四次総合計画後期基本計画」では、“地域資源を活かした観光振興”を図ることとして観光振興はむらづくりの大きな柱となることが期待されている。

こうした中、平成 30 年度は、「第二次今帰仁村観光リゾート振興計画」の計画期間が終わりを迎えている。

近年の沖縄県では、観光客の増加が顕著に進んでいる。とりわけ外国人観光客は短期間に急増し、今後も増加が見込まれる。また、国内客はリピーター化が進み、現在約 8 割がリピーターとなっている。このような状況を受け、沖縄県では平成 29 年度に第 5 次観光振興計画を改定し、平成 33 年度（2021）に向けた入域観光客数の目標値をこれまでの 1,000 万人から 1,200 万人に、観光収入を 1 兆円から 1 兆 1 億円に上方修正している。

今後は、2020 年の本部港への大型クルーズ船の入港、やんばる国立公園の世界自然遺産登録に向けた取り組みなど、村内及びその周辺の観光産業を取り巻く環境が大きく変化している。

このような背景を受け、観光振興により地域の優れた自然環境保全や産業育成を行うことで、雇用の創出や村民所得の向上を図り、地域の活性化を実現することを目的に、本村の「これまで」と「これから」の環境の変化、地域の取組意向、観光客のニーズ等を把握し、観光振興に寄与する新たな観光施策を推進していくために本計画を策定する。

2. 「第三次今帰仁村観光リゾート振興計画」の位置づけ

本計画は、「今帰仁村第四次総合計画 後期基本計画」（平成 29 年 3 月）の下位に位置づけられるもので、本村の観光施策に関する指針となるものである。

3. 計画の期間

本計画の計画期間は 2019 年度から 2028 年度までの 10 年間とする。

ただし、5 年後の 2023 年度に各施策の進捗確認とともに社会情勢の変化に応じて目標や施策など計画の見直しを行うものとする。

4. 今年度業務フロー

本業務は、下記の業務フローに沿って進めた。

業務フロー（主な内容）	策定委員会・ワーキンググループ	備考
<p>①村内情勢の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎資料の整理 現状と課題の整理 <p>②第二次今帰仁村観光リゾート振興計画の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 庁内関係部署 村内関係機関 ヒアリング <p>③観光動向調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光事業者ヒアリング WEB、SNS 調査 村内観光事業者アンケート 観光客対面アンケート 県外在住者 WEB アンケート 区長ヒアリング 住民ワークショップ 住民満足度調査 <p>⑤事例調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都府京都市 <p>⑥第三次今帰仁村観光リゾート振興計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本理念及び基本方針 各種施策の検討 各種数値目標の設定 <p>とりまとめ</p>	<p>④策定委員会、ワーキンググループの開催</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>第1回 策定委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成 30 年度の取組 ○観光動向調査について </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; margin-left: 100px;"> <p>第1回 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ○評価内容について ○課題の抽出 ○基本方向についての検討 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>第2回 策定委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題の確認 ○基本方向についての確認 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; margin-left: 100px;"> <p>第2回 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各種数値目標の検討 ○各種施策の検討 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>第3回 策定委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数値目標及び施策の決定 ○基本理念及び推進体制の決定 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 20px; text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>計画策定</p> </div>	<p>備考</p> <p style="text-align: right;">計画期間： 2019～2028 年度 ※5 年後の 2023 年に見直し</p>

第1章 今帰仁村の現状と課題

1. 観光の現状

①観光施設入場者数の推移

現在、本村の観光入込客は、今帰仁城跡と古宇利島に集中しており、村内での滞在や立ち寄りスポットが限られている。平成 25 年に開業した橋の駅リカリカワルミの入込客数は順調に増加しており、今後も周遊、滞在、消費を促す機能の強化が求められている。

表 村内施設入域客数

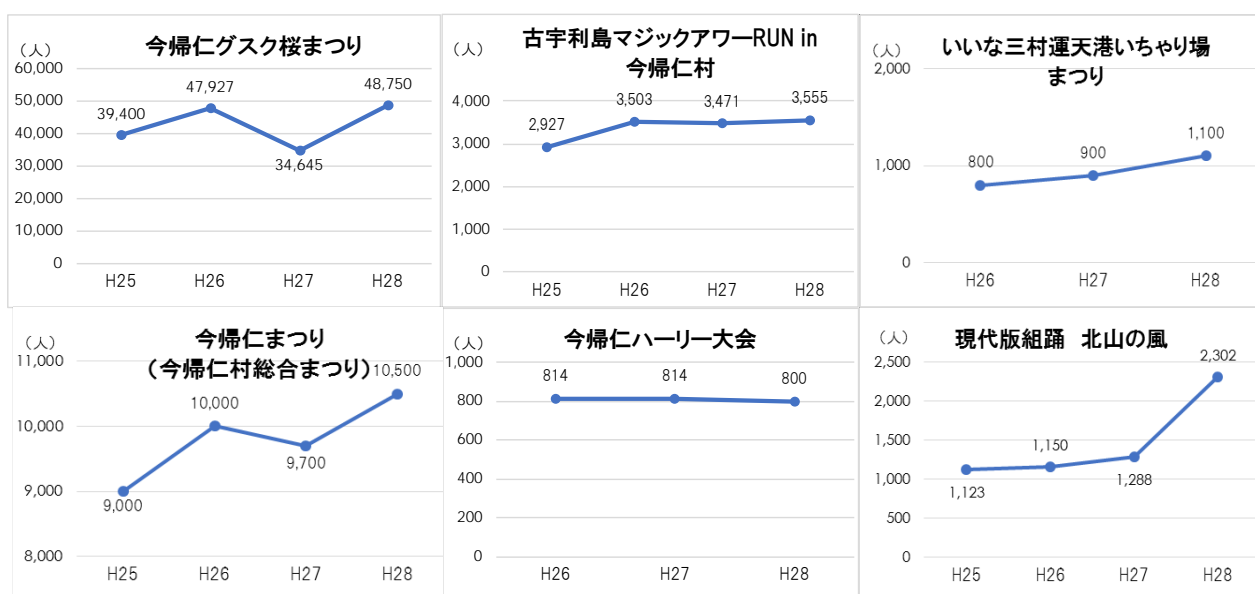
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
今帰仁城跡	250,632	243,258	248,513	249,998	266,398	268,215	293,331	301,479	274,867
今帰仁村歴史文化センター	109,758	108,670	128,275	127,750	131,467	126,760	139,229	130,113	107,568
今帰仁の駅そ〜れ	84,354	81,010	79,241	72,896	75,203	72,679	75,238	74,049	72,525
古宇利ふれあい広場食堂	13,519	18,080	17,856	21,143	21,090	22,195	23,570	45,610	23,211
古宇利橋詰広場	170,714	194,518	211,069	237,683	231,745	203,690	202,368	222,677	230,307
橋の駅リカリカワルミ								36,717	48,852

出典：今帰仁村資料

②村内イベント参加者数

村内で開催される主なイベントは、「今帰仁グスク桜まつり」「古宇利島マジックアワーR UN in 今帰仁村」「いいな三村運天港いちやり場まつり」「今帰仁まつり（今帰仁村総合まつり）」「今帰仁ハーリー大会」「現代版組踊 北山の風」などがある。

イベント参加人数は全体的にみて増加傾向にある。



出典：「H26～H28 年度沖縄振興特別推進市町村交付金の事後評価結果」（沖縄県）

2. 第二次観光リゾート振興計画の進捗状況及び調査内容

①第二次観光リゾート振興計画の進捗評価

第二次観光リゾート振興計画の進捗評価は、振興計画で示された基本方向が9件、各基本方向から派生する具体施策が50件あり、この50件の具体施策について評価を実施した。評価方法は基本方向及び具体施策を担当する各課のヒアリング内容に基づき、評価を行った。内容は以下のとおりである。

表 基本方向ごとの進捗状況

基本方向	A	B	C	D	E	評価(点)
1. 推進体制づくりを推進する	0件(0%)	1件(17%)	3件(50%)	1件(17%)	1件(17%)	41.7
2. 歴史遺産を活かす(1)今帰仁城跡	0件(0%)	8件(100%)	0件(0%)	0件(0%)	0件(0%)	75.0
歴史遺産を活かす(2)その他歴史・文化財	0件(0%)	2件(67%)	0件(0%)	1件(33%)	0件(0%)	58.3
3. 海山の恵みを活かす	1件(13%)	4件(50%)	2件(25%)	1件(13%)	0件(0%)	62.5
4. 美しいむら並みをつくる	1件(20%)	1件(20%)	3件(60%)	0件(0%)	0件(0%)	65.0
5. 健康長寿を実践する	1件(25%)	2件(50%)	1件(25%)	0件(0%)	0件(0%)	75.0
6. 生活文化を発信する	1件(50%)	0件(0%)	1件(50%)	0件(0%)	0件(0%)	75.0
7. 体験滞在観光を促進する	0件(0%)	2件(33%)	4件(67%)	0件(0%)	0件(0%)	58.3
8. 着地型・周遊観光を実現する	2件(33%)	4件(67%)	0件(0%)	0件(0%)	0件(0%)	83.3
9. 情報発信を強化する	1件(25%)	3件(75%)	0件(0%)	0件(0%)	0件(0%)	81.3
合計(50件)	7件(14%)	27件(54%)	12件(24%)	3件(6%)	1件(2%)	

※施策評価について以下のように点数制で数値化した。

A=実施済み 100点

B=さらに継続して取り組む 75点

C=一部実施 50点

D=進展なし 25点

E=未実施 0点

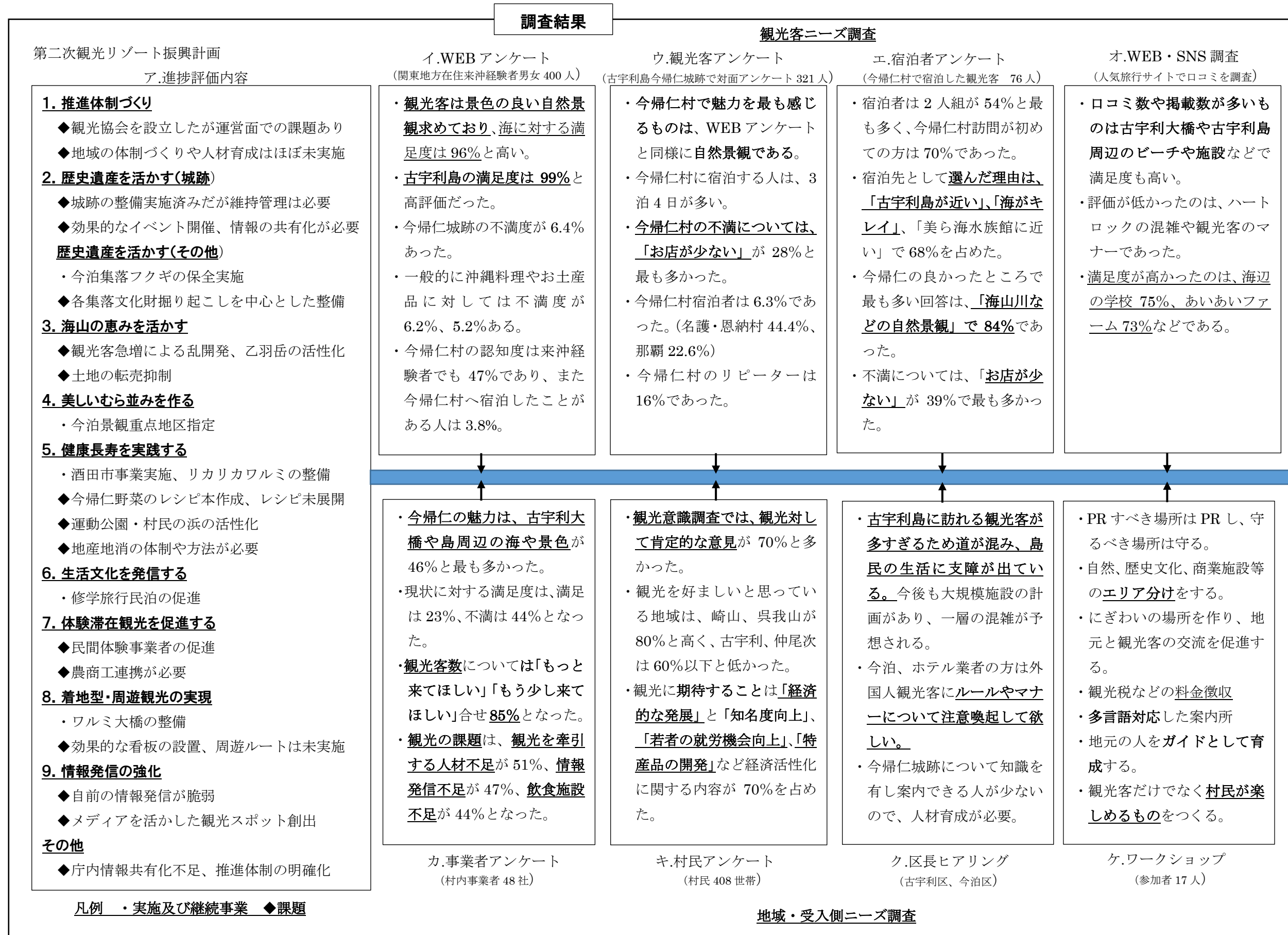
総括

・第二次今帰仁村観光リゾート振興計画で位置づけられた施策は全部で9部門50件あり、Aの「実施済み」が7件(14%)、Bの「さらに継続して取り組む」が27件(54%)と合わせて31件(68%)が進行している。Cの「一部実施」が12件(24%)となり、Dの「進展なし」が3件(6%)、Eの「未実施」が1件(2%)となっている。

・C「一部実施」、D「進展なし」、E「未実施」の主な理由としては、計画内容の曖昧さや担当課の割当未完了や実施主体の不明瞭などが挙げられた。D「進展なし」は、計画内容の曖昧さゆえに、計画の実施内容が見えずに特に大きな進展もなく終わってしまった。また、E「未実施」については、実施主体の不明瞭などによって実施出来なかった。

このようなD「進展なし」、E「未実施」という結果になってしまった施策があるため、施策計画時における実施主体の明確化や進捗管理体制が必要であると考えられる。

②第二次の進捗評価内容及び第三次今帰仁村観光リゾート振興計画における調査結果は下表の通りである。



※ア～ケの結果詳細は、業務報告書に掲載している。

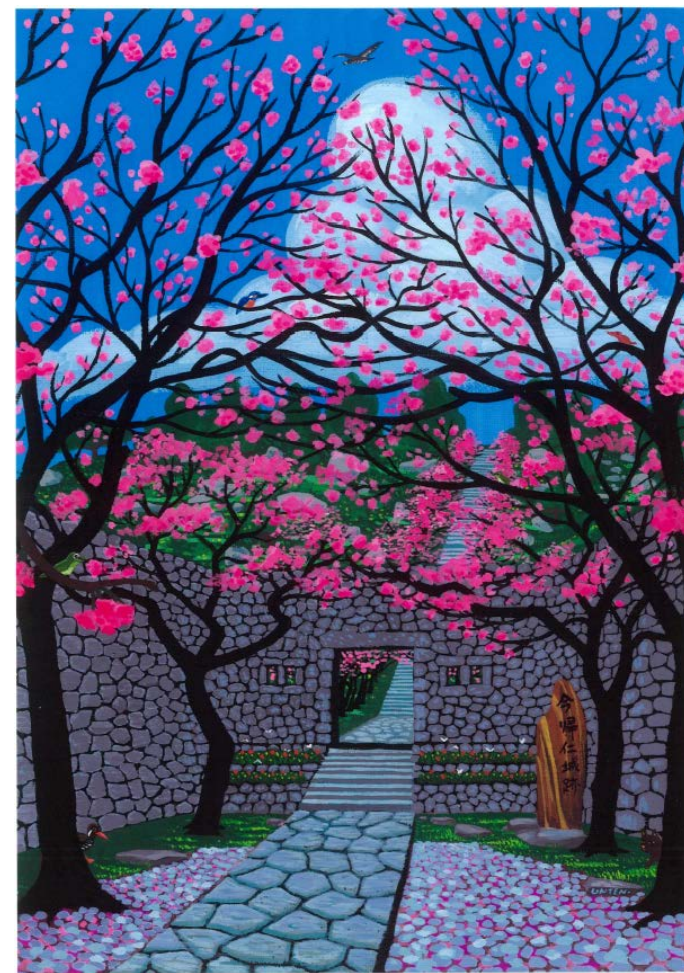
次頁
「観光振興に向けた課題」へ



ワークショップ風景①



ワークショップ風景②



3. 観光振興に向けた課題

調査結果から、課題を2つのカテゴリー「①海と自然を活かした観光地づくりの課題」、「②経済効果を促す体制づくりの課題」に分け、詳細を示す。

以下の通り課題をまとめた。

①海と自然を活かした観光地づくりの課題

・村民の浜、古宇利島、乙羽岳の自然景観の活用と各ビーチの保全

観光客が求めているのは沖縄の海や山の自然景観である。村民の浜や乙羽岳森林公園は利用のため施設整備を進めてきた場所であることから、今後積極的に活用を図る。一方、村内には手付かずの自然が残るビーチがあるが、近年観光客の増加により荒廃が懸念されている。一旦荒廃が進むと、元の姿に戻すことは難しいため、大切な地域資源である各ビーチの保全が必要である。

・今帰仁城跡の魅力向上

団体ツアーのルート変更などにより、利用客が近年減少している。一方で、無料ガイドによる案内は満足度が高く、利用客を増やすためにはガイドの充実等、魅力の伝え方を工夫する必要がある。

・村内各地への周遊促進

今帰仁村の観光は古宇利島一極集中の傾向がある。観光客が求める自然景観や飲食の情報提供、観光客が訪れても満足できる受入体制など、村内各地へ周遊を促し、分散化を図るような仕組みが必要である。

・古宇利島のオーバーツーリズム

古宇利島に訪れる観光客が年々増加しており、今後さらなるオーバーツーリズム※の恐れがある。島に訪れる観光客と住民の住み分けなど、生活に支障の無いよう対策や検討が必要である。

※オーバーツーリズムとは、観光地が耐えられる以上の観光客が押し寄せる状態（過剰な混雑）のことを指す。

・乱開発の抑制やゾーニング

観光客の急増に伴い、村内の土地価格が高騰している。そのため土地を販売する人が増え、開発の動きが激しくなっている。今後これ以上無秩序な開発が進まないよう開発の抑制やゾーニングが必要である。

・観光経済の活性化、若者の雇用創出

村民アンケートによると、観光に期待するものとして「経済の活性化」や「若者の雇用創出」があげられた。経済の活性化により所得向上や雇用創出など地域経済を好循環させる仕

組みが必要である。

・飲食店不足

観光客アンケートや事業者アンケートによると、飲食店が少ないと認識する人が多かった。既存飲食店の情報を周知するとともに、今後観光ニーズに応じた飲食店の増加を図っていく必要がある。

・お土産品の強化

事業者アンケートによると今帰仁村特産品を使用したお土産品が少ない。観光客の消費を促進するためにお土産品の強化が必要である。

・地産地消の体制づくり

今帰仁産の特産品の飲食や購入できる場所が少ない。村内の経済活性化にむけて、地域内経済を循環させるため一つの施策として、地産地消体制が必要である。

・今帰仁の駅そーれ・橋の駅リカリカワルミの活用促進

村内の物販飲食拠点として、上記二施設の共通の課題は観光客の集客である。古宇利島を目的地とした観光客への周知や情報提供により誘客を図り、賑わい及び経済活性化の促進を目指す。

・満足度が高い体験型事業展開

村内の体験事業者が少ないという課題がある。観光客の満足度向上や村内の周遊・消費促進のため、体験事業者の拡大が必要である。

・効果的なイベントの増加

観光客の集客につながるような観光客向けのイベントが少ないという課題がある。今帰仁村の良さを伝えリピーターになってもらえるイベントの開発が必要である。

②経済効果を促す体制づくりの課題

・観光ニーズ調査の強化

観光客のニーズ調査や満足度調査など、観光産業の指標となる調査が必要である。

・情報発信の強化

古宇利島だけでなく、今帰仁村の各観光地を紹介するなど、情報発信及び魅力の伝達の強化が必要である。またマナー啓発や多言語対応の面からも一層の強化が必要である。

・高齢者対応

少子高齢化を迎え、旅行者の高齢化が予想されることから、バリアフリーを含めたユニバーサルデザインの検討が必要である。

・多様な外国人対応

外国人観光客の急増に伴い、マナー啓発、多言語対応、多様な食文化への対応、キャッシュレス対応など、多様な外国人に対しての対応が求められる。

・近隣市町村との連携強化

広域的な観光を推し進める上で、近隣市町村と連携をした受入や情報発信などの検討が必要である。

・観光協会の機能強化

観光協会の機能として、情報発信やイベント企画など、村内の観光を牽引する体制が必要である。

・牽引する人材不足

事業者アンケートによると、観光を牽引する人材の不足が多くあげられている。村内の観光事業者を牽引する人材の育成及び発掘が必要である。

・庁内の情報共有化

庁内の情報を他の民間組織で活用するなど情報共有化が求められている。そのため今後情報の連絡などがスムーズに行えるような組織体制や連絡会などの開催が必要である。

・観光リゾート計画推進体制の明確化

第三次観光リゾート振興計画では、施策を着実に進めるために推進組織体制や責任割当の明確化が必要である。

第2章 今帰仁村観光の将来像と目指す方向

今帰仁村観光の将来像として、基本理念、基本目標を設定する。

また、観光リゾート振興計画の理念目標及び第四次総合計画後期基本計画における観光振興を実現するための観光振興の基本方向と、観光振興の進捗を評価する指標（2023年度の目標）を設定する。

1. 基本理念

自然と歴史とロマンに満ち躍動するむら

今帰仁村観光リゾート振興計画が目指すところは、豊かなむらづくりにある。豊かなむらとは、良好で身近な自然環境に恵まれ、地域が歴史とロマンに満ち、そこに住む村民誰もが健康でイキイキと日常の生活を営んでいる姿であろう。このような豊かな村や村の生活に訪れる人達が共感することで宿泊滞在してみたいという欲求が沸き起こるものである。そしてその欲求の積み重ねが、一度限りでなく何度も足繁く通う観光リゾートそのものにつながっていくものと思われる。

以上の考え方は今帰仁村観光リゾート振興計画（1999年3月）の基本理念であるが、現在の今帰仁村においても、豊かな自然環境や歴史文化は村の財産であり、むらづくりの主役である村民が観光振興の担い手となることで、将来に渡って発展を図る方向性は変わらないことから、本計画においても当初計画からの基本理念を踏襲するものとする。



2. 基本目標

今帰仁村の観光リゾート振興は、地域資源、地域人材、地域産業を最大限活かしつつ、村民が一丸となって展開されるべきものであり、これがひいては北部観光並びに本県観光の振興にも寄与するものと考えられる。このような視点に立って、ここでは以下の当初計画より掲げられた3つの基本目標を踏襲する。

1) 自然の摂理を学ぶ今帰仁

亜熱帯の海・山・里・島に恵まれた本村の自然を大切にしつつ、これを村民はもとより来訪者とのふれあい交流、学習の場として認識し、大自然の魅力をいかんなく発揮できるむらづくりに努める。

2) 歴史とロマン香る今帰仁

琉球の三山鼎立時代以降、国頭地方を中心地として栄え、今なお「今帰仁上い」の舞台として県民に親しまれている今帰仁村を認識し、そのロマンに満ちた歴史的文化的遺産を広く観光資源として整備・演出し、現在のむらづくりの中で活かしていくことに努める。

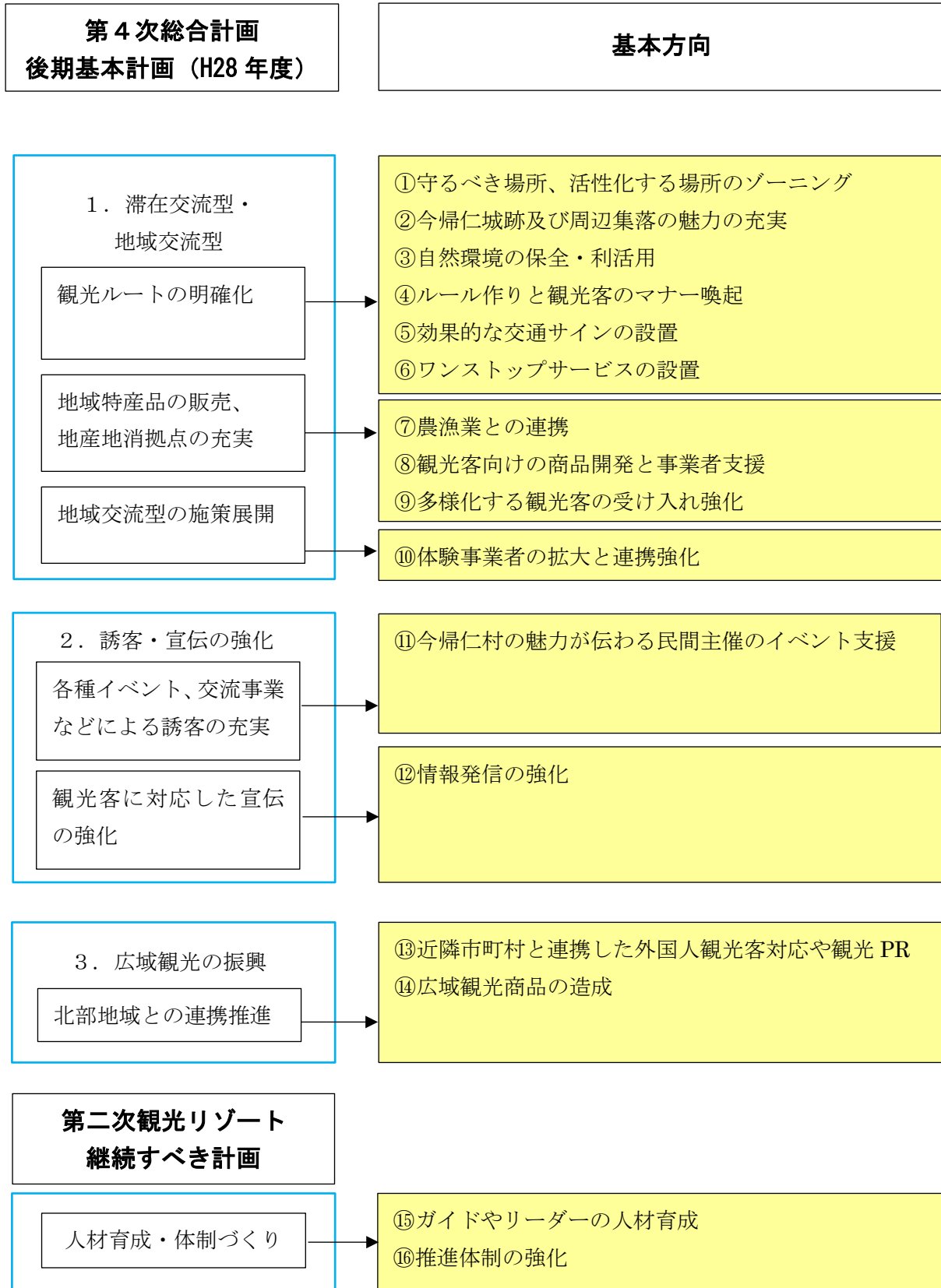
3) 老いも若きも躍動する今帰仁

観光振興をむらぐるみで支えていくためにも、老若男女だれもが地域のまつり・行事やイベントに参画して楽しむとともに、多彩な地域情報を積極的に発信するなど、多くの交流活動・経済活動を通して、村民だれもが生き甲斐ある生活を営めるむらづくりに努める。



3. 基本方向

第三次今帰仁村観光リゾートにおける基本方向については、第四次総合計画の観光振興分野を実現させる施策として調査結果からまとめた課題や基本理念、基本方針に基づくとともに、第二次今帰仁村観光リゾート振興計画にて継続すべき内容を踏まえ、基本方向を定める。



①守るべき場所、活性化する場所のゾーニング

- ▶ 村民が大事にしている場所や代々受け継がれてきた神聖な場所などの守るべき場所と、村民や観光客が賑わい、経済活動で活性化を図る場所のゾーニングを図る。また、規制を強化する場所、緩和する場所は今後見極めることとする。

②今帰仁城跡及び周辺集落の魅力充実

- ▶ 今帰仁城跡の魅力や満足度向上につなげるため、今帰仁城跡周辺集落含め今帰仁村の歴史ロマンの魅力を活用した案内を実施する。

③自然環境の保全・利活用

- ▶ 村内にある静かな自然のビーチを保全するとともに、施設整備が施されている村民の浜や乙羽岳森林公園などについては、さらに積極的な利活用を図る。

④ルール作りと観光客のマナー喚起

- ▶ 観光客の利用が著しい場所などでのルールづくりや、観光客へのマナー啓発のための看板やポスターなどの設置に努める。

⑤効果的な交通サインの設置

- ▶ 村内の活性化を図る場所へ誘導するために分かりやすい交通サインの積極的な設置を目指す。

⑥ワンストップサービスの設置

- ▶ 古宇利島の集客力を利用し、村内の情報を提供するワンストップサービスによる、村内各観光スポットへ周遊・消費・体験を案内する施設の設置を図る。

⑦農漁業との連携

- ▶ 今帰仁村の経済活性化のため、地産地消の拠点と農漁業の連携を図るため、施設機能についての強化・整備を目指す。

⑧観光客向けの商品開発と事業者支援

- ▶ 観光客向けに売れるお土産品を作るため、マーケティング調査を実施し、特産品を使った商品開発を目指す。
- ▶ 地場産業を支援できるような事業実施を図る。

⑨多様化する観光客の受け入れ強化

- ▶ 増加する観光客に対し、バリアフリーや言語、その他多様な課題に対応出来るよう、受入の強化に努める。

⑩体験事業者の拡大と連携強化

- ▶ 村内の自然や文化を活かした体験事業者の増加を図る。
- ▶ 体験事業者の情報共有化により村内事業者の連携を目指す。
- ▶ 教育旅行民泊をはじめ、体験滞在型観光を促進する。

⑪今帰仁村の魅力が伝わる民間主催のイベント支援

- ▶ 今帰仁村の魅力や楽しさが伝わる民間主導のイベントを支援する。
- ▶ 既存施設を活用したスポーツコンベンションの誘致を図る。

⑫情報発信の強化

- ▶ 今帰仁村の魅力を十分にPRするため、情報発信の強化を行い、観光客へ魅力の提供を図る。

⑬近隣市町村と連携した外国人観光客対応や観光PR

- ▶ 近隣市町村と連携して、外国人向けの多言語表記、マナー啓発、やんばるの魅力を伝える観光キャラバンなどの実施を目指す。

⑭広域観光商品の造成

- ▶ 近隣市町村と連携した広域周遊を促す観光客向け商品の造成を目指す。

⑮ガイドやリーダーの人材育成

- ▶ 観光教育を通して今帰仁の地域を学び、愛着を醸成することにより10年後地域人材として活躍できるように育成・支援を図る。

⑯推進体制の強化

- ▶ 観光リゾート振興計画を牽引する役割として、今帰仁村経済課を中心とした庁内の連携はもとより、観光協会、商工会、関係団体の連携により推進体制の強化を図る。
- ▶ 観光客の満足度調査や住民の観光意識調査など、持続可能な観光地づくりのための各種調査の実施を目指す。

4. 数値目標

本村の観光振興を評価する指標として、2023 年度を目標年度とし基本的には上昇を目指すとする。本計画が終了する 2028 年度の数値目標は 5 年後の 2023 年度に検討する。

表 項目別数値目標

項目別数値目標		
項目	現状 (2018 年度)	5 年度 (2023 年度)
①	観光客満足度調査（古宇利、今帰仁城跡）今帰仁村の満足度（N=321）	「満足」 54.2% 上昇を目指す
②	住民観光意識調査（N=406） 観光を「好ましい」と感じている	「好ましい」 70% 上昇を目指す
③	ふるさと納税返礼品	39 種類 (宿泊券やクーポン券などは除く) 上昇を目指す
④	修学旅行民泊（受入民家、生徒数）	受入民家 64 世帯 生徒数 8400 人 上昇を目指す
⑤	レジ通過数 (今帰仁城跡、古宇利ふれあい広場、今帰仁の駅そーれ、リカリカワルミ)	65 万人 上昇を目指す
⑥	村内ホテルの宿泊者数 (観光協会会員主要ホテル) ※宿泊者数の統計方法は 2019 年度に検討	— —

※各項目確認方法について

- ①、②：業務報告書実施アンケート参照
- ③：Web サイト「ふるさとチョイス」今帰仁村のお礼の品を参照
- ④：観光協会情報参照
- ⑤：業務報告書参照
- ⑥：統計方法について観光協会と調整が必要

第3章 施策と具体的な取り組み

1. 具体施策の内容

前述した基本方向①～⑩に基づき、以下に示す観光施策を推進します。

①守るべき場所、活性化する場所のゾーニング

1. 古宇利島及び各ビーチの景観保全
2. 村内のゾーニング
3. 観光地保全・利活用のための財源確保
4. 古宇利島の拠点機能の集約化（観光案内所、
駐車場）
5. 古宇利島に集中する観光客の分散化を図る
周遊ルートの作成
6. 観光スポットの受入強化

①-1. 古宇利島及び各ビーチの景観保全

- ・開発が進む古宇利島をはじめ、村内の各ビーチについても景観の保全を目指す。ただし、規制や開発の誘導については今後慎重に検討する。
- ・エリア：古宇利島、村内海岸線一帯
- ・推進主体：村、区

①-2. 村内のゾーニング

- ・自然環境や生活環境の保全、秩序ある観光開発を促すため、村内のゾーニングを図る。ただし、規制や開発の誘導については慎重に検討する。
- ・エリア：村内全域
- ・推進主体：村、区

①-3. 観光地保全・利活用のための財源確保

- ・観光客が増加する中、快適な観光地を維持するため、観光地の整備や清掃を行うための財源確保を検討する。（例：駐車場有料化、トイレ使用・掲示物有料化）
- ・エリア：村全体
- ・推進主体：村、観光協会

①-4. 古宇利島の拠点機能の集約化（観光案内所、駐車場）

- ・古宇利島に観光拠点機能として、観光案内所や駐車場やトイレの整備を目指す。
- ・エリア：古宇利島
- ・推進主体：村

①-5. 古宇利島に集中する観光客の分散化を図る周遊ルートの作成

- ・オーバーツーリズムが懸念される古宇利島の負担を減らすため、古宇利島から村内を周遊させるルート作成に努める。
 - ・エリア：村内全域
 - ・推進主体：観光協会、商工会
-

①-6. 観光スポットの受入強化

- ・古宇利島に集中する観光客の分散化を目指して、村内各地の観光スポットへ観光客を誘導するよう受け入れ体制の強化を図る。
- ・エリア：村民の浜、乙羽岳森林公園、今帰仁城跡
- ・推進主体：村、観光協会

②今帰仁城跡及び周辺集落の魅力の充実

1. 今帰仁城跡の魅力及び満足度向上のため歴史ストーリーをもたせた案内実施
2. 周辺集落の魅力（歴史ロマンを感じさせるストーリー）発掘
3. 集落散策の案内 PR 強化

②-1. 今帰仁城跡の魅力及び満足度向上のため歴史ストーリーをもたせた案内実施

- ・歴史を感じるストーリーを案内ガイドに盛り込み、IT 技術を活用する等、今帰仁城跡の魅力を伝え、観光客の満足度向上を目指す。
 - ・エリア：今帰仁城跡
 - ・推進主体：村、観光協会、グスクを学ぶ会
-

②-2. 周辺集落の魅力（歴史ロマンを感じさせるストーリー）発掘

- ・今帰仁城跡の周辺集落の魅力を向上させるため、歴史ロマンを感じさせるストーリーの発掘に努める。
 - ・エリア：今帰仁城跡周辺集落
 - ・推進主体：村、観光協会
-

②-3. 集落散策の案内 PR 強化

- ・今帰仁城跡のガイドにより今泊や運天など集落散策が実施されているが、積極的に周知を図るよう、情報発信による案内や受付窓口の PR 強化を図る。
 - ・エリア：今帰仁城跡周辺集落、文化財が残る各集落
 - ・推進主体：村、観光協会、グスクを学ぶ会
-

③自然環境の保全・利活用

- 1. 村内自然海岸（ビーチ）の保全
- 2. 村民の浜、乙羽岳森林公園や運動公園など既存施設の活性化

③-1. 村内自然海岸（ビーチ）の保全

- ・村民が心の拠り所として大切に守り親しんできたビーチなど、守るべき環境や景観の保全を目指し、多様な生物を育む豊かな環境を今後も維持していけるよう努める。
- ・エリア：村内全体のビーチ（村民の浜、ウッパマビーチは除く）
- ・推進主体：観光協会、村、区

③-2. 村民の浜、乙羽岳森林公園や運動公園など既存施設の活性化

- ・村民並びに県民、観光客が楽しめる観光施設として、村民の浜、乙羽岳森林公園や運動公園など既存施設の活性化を図る。
- ・エリア：村民の浜、乙羽岳森林公園や運動公園など既存施設
- ・推進主体：観光協会、村、指定管理者等

④ルール作りと観光客のマナー喚起

- 1. 生活空間の保全ルール検討
- 2. 多言語表記によるマナー啓発の看板等設置

④-1. 生活空間の保全ルール検討

- ・増え続けている観光客が住民の生活圏内に入り、住民と観光客とがトラブルにならないよう、住み分けを行う保全ルールの検討を図る。
- ・エリア：村内全域
- ・推進主体：村、区

④-2. 多言語表記によるマナー啓発の看板等設置

- ・ゴミの散乱、ポイ捨て、騒音、住居侵入などの抑制を目的としたマナー啓発のため、多言語表記看板やポスターの掲示物等の設置を図る。
- ・エリア：村内各観光スポット
- ・推進主体：村、観光協会、区

⑤効果的な交通サインの設置—— 1. 活性化する場所へ誘導するサインの設置

⑤-1. 活性化する場所へ誘導するサインの設置

- ・経済効果を促すため、活性化を期待する場所へ誘導交通サインの設置を図る。
- ・エリア；村内全域
- ・推進主体：村

⑥ワンストップサービスの設置—— 1. 周遊促進のための村内観光案内サービスを行う総合観光案内所の設置と観光危機管理

⑥-1. 周遊促進のための村内観光案内サービスを行う総合観光案内所の設置と観光危機管理

- ・古宇利島に訪れる人に村内の観光スポットへ周遊を促す年中無休で多言語対応可能な、観光危機管理を含めた総合観光案内所を設置する。また、周遊につなげることで分散化を促しオーバーツーリズムなどの課題対処を目指す。
- ・エリア：古宇利島
- ・推進主体：観光協会、村

⑦農漁業との連携—— 1. 古宇利島の拠点施設整備（飲食・物販機能）
2. 今帰仁の駅そーれ、リカリカワルミの集客力強化

⑦-1. 古宇利島の拠点施設整備（飲食・物販機能）

- ・今帰仁村の農漁業と連携し地産地消の拠点として飲食機能や直売所の機能を強化する施設の整備を目指すとともに、村産品を活用した経済活性化を目指す。
- ・エリア：古宇利島
- ・推進主体：村、観光協会、商工会

⑦-2. 今帰仁の駅そーれ、リカリカワルミの集客力強化

- ・今帰仁の駅そーれやリカリカワルミでは古宇利島へ向かい通過する観光客に対して、集客力のあるイベント等開催し、PR 強化を図る。
- ・エリア：今帰仁の駅そーれ、リカリカワルミ
- ・推進主体：村、観光協会、商工会

⑧観光客向けの商品開発と事業者支援

1. お土産品のニーズ動向調査の実施
2. 村内特産品を使用した商品開発
3. 地場産業の事業支援
4. 飲食店の創業支援

⑧-1. お土産品のニーズ動向調査の実施

- ・観光客に売れるお土産品の基礎調査として、ニーズ調査の実施を図る。
 - ・エリア：村全域
 - ・推進主体：観光協会、商工会
-

⑧-2. 村内特産品を使用した商品開発

- ・ニーズ調査内容を元に商品企画を行い、村内特産品を使用した商品開発を図る。地産地消の商品は付加価値が高く、地域経済活性化を目指す。
 - ・エリア：村全域
 - ・推進主体：商工会、各事業所
-

⑧-3. 地場産業の事業支援

- ・地元の事業者に対し、産業支援として商品開発に取り組もうとする企業に対し、観光客のニーズを踏まえた開発支援などに努める。
 - ・エリア：村全域
 - ・推進主体：商工会、各事業所
-

⑧-4. 飲食店の創業支援

- ・観光客の増加に伴い飲食店は必要となるが、今婦仁村には空き店舗が少ないため新規企業の飲食店創業が難しく、観光客も飲食店のある他市町村へ行きがちとなる。雇用を支えるための創業支援を図る。
 - ・エリア：村全体
 - ・推進主体：商工会
-

⑨多様化する観光客の受け入れ強化

1. 多様化するニーズへの対応
2. 外国人観光客の利便性向上

⑨-1. 多様化するニーズへの対応

- ・多様化する国内外観光客のニーズ対応し、高齢者、障害者、ペット同伴、アレルギー、食事など、できるだけ配慮できるよう努める。
- ・エリア：村全体
- ・推進主体：各事業所、村、観光協会

⑨-2. 外国人観光客の利便性向上

- ・急増する外国人観光客に対し、飲食店の多言語メニュー掲載や食文化対策（ハラール対応・アレルギーなど）、キャッシュレスサービスなど利便性の向上を目指す。
- ・エリア：村全体
- ・推進主体：各事業所、観光協会、商工会

⑩体験事業者の拡大と連携強化

1. 既存体験事業者のPR強化と新規事業者の誘致
2. 体験事業者の情報共有化と連携強化
3. 体験滞在型観光の促進

⑩-1. 既存体験事業者のPR強化と新規事業者の誘致

- ・古宇利島の集客力と今帰仁村の豊かな自然を活かした満足度の高い体験メニューのPR実施により、既存事業者の強化や教育旅行民泊受入家庭の増加、新規事業者の誘致を図る。
- ・エリア：村全体
- ・推進主体：観光協会、商工会

⑩-2. 体験事業者の情報共有化と連携強化

- ・今帰仁村に事業所を置く体験事業者の情報（体験内容や価格など）の共有化により、体験事業者の相互連携や飲食店やホテルなどから観光客へ事業者を紹介できるよう連携強化や活用を図る。
- ・村内で観光分野に活躍できる人材の活用を図るため、情報の共有化を目指す。
- ・エリア：村全体
- ・推進主体：観光協会、商工会

⑩-3. 体験滞在型観光の促進

- ・今帰仁村の自然環境や歴史文化、農林水産業、イベントスポーツ、地域交流など地域資源を活かした体験事業の強化とともに村内での滞在を促すため、教育旅行民泊をはじめ多種多様な宿泊機能の拡大により体験滞在型観光を促進する。
- ・エリア：村全体
- ・推進主体：観光協会、商工会

⑪今帰仁村の魅力が伝わる民間主催のイベント支援

1. 民間の創意工夫を活かした多様なイベント
2. 村の魅力を活かしたスポーツコンベンション
3. 今帰仁城跡の歴史を活用したイベント

⑪-1. 民間の創意工夫を活かした多様なイベント

- ・観光客や県民向けに、様々なターゲットを盛り込んだ民間企画のイベント開催の支援を行う。
- ・エリア：村全体
- ・推進主体：各事業所、村

⑪-2. 村の魅力や既存施設を活かしたスポーツコンベンション

- ・運動公園など既存の施設を活かした規模のスポーツコンベンションや村内の景観の魅力などを活かしたサイクルツーリズムの推進など目指す。
- ・エリア：村全体
- ・推進主体：村 観光協会

⑪-3. 今帰仁城跡の歴史を活用したイベント

- ・今帰仁城跡の魅力を活かしたイベント企画に対し、場所の提供などサポートを行う。
- ・エリア：今帰仁城跡
- ・推進主体：各事業所、村、指定管理者

⑫情報発信の強化

1. 村内の情報を管理するホームページの充実（飲食情報の充実と連携）
2. 国内外の観光展示会や商談会への参加
3. 観光協会による一括管理した情報発信（継続的な SNS、メディアの活用）の検討

⑫-1. 村内の情報を管理するホームページの充実（飲食情報の充実と連携）

・村内事業者の情報を集約し、観光客が有効利用出来るホームページの充実を目指す。また、ホテルなど村内事業者が観光客へ紹介するツールとして活用できるよう飲食店などの情報の充実を図り、事業者と飲食店の連携も図る。

- ・エリア：村全体
 - ・推進主体：観光協会、商工会
-

⑫-2. 国内外の観光展示会や商談会への参加

・国内外の旅行社向け展示会や商談会に対して、今帰仁村の PR のため観光協会が積極的に参加することを目指す。

- ・エリア：なし
 - ・推進主体：観光協会
-

⑫-3. 観光協会による一括管理した情報発信（継続的な SNS、メディアの活用）の検討

・ホームページや SNS など管理運営や情報発信メディアを使った宣伝など今帰仁村の観光客向け情報発信全般について、今帰仁村観光協会が一括して管理することを目指す。

- ・エリア：なし
- ・推進主体：観光協会

⑬ 近隣市町村と連携した外国人観光客対応や観光 PR

- 1. 多言語表記のマナー啓発による連携
- 2. 広域観光による PR

⑬-1. 多言語表記のマナー啓発による連携

・マナー啓発を実施するためには観光客の行動範囲である広域での実施が必要不可欠であり広域としてマナー啓発の実施を図る。

- ・エリア：広域及び村内
 - ・推進主体：村
-

⑬-2. 広域連携による PR

・観光客は市町村の枠を超えて広範囲で行動するため、広域的に観光 PR を行うキャラバン等の実施を目指す。

- ・エリア：広域及び村内
- ・推進主体：観光協会

⑭広域観光商品の造成 ————— 1. 満足度を高める広域観光ルートの作成

⑭-1. 満足度を高める広域観光ルートの作成

- ・観光客の行動範囲を意識した広域観光ルートマップの作成を図る。
- ・エリア：広域
- ・推進主体：村、観光協会

⑮ガイドやリーダーの人材育成 —————

1. 今帰仁村地域学習の強化
2. 地域観光教育による人材育成制度の実施
3. 多言語対応の人材育成支援（英語、中国語等）

⑮-1. 今帰仁村地域学習の強化

- ・今帰仁村兼次小学校で実施されている地域学習について、他の小学校でも同じような取り組みが出来るよう横の連携を目指す。また、小学生が自分たちの地域の文化や自然に誇りと愛情を持てるよう地域学習を充実する。
- ・エリア：村全体
- ・推進主体：村、教育委員会

⑮-2. 地域観光教育による人材育成制度の実施

- ・小学校～高校にかけて実施される地域学習を経て「観光を中心としたキャリア教育」を学び、必要な人材像の整理と人材育成に努める。
- ・エリア：村全体
- ・推進主体：村、教育委員会

⑮-3. 多言語対応の人材育成支援（英語、中国語等）

- ・村内各地観光スポットやワンストップサービスを含めた多様な場での活用を考え、多言語対応可能なガイドの支援を図る。
- ・事業者の語学教育・研修支援や外国人やバイリンガル等の採用支援など地域のニーズに基づいた多言語対応の支援を目指す。
- ・エリア：村全体
- ・推進主体：村、教育委員会、各事業所

⑩推進体制の強化

1. 役場・観光協会・商工会間の情報共有体制・連絡体制の強化
2. 各種調査の実施

⑩-1. 役場・観光協会・商工会間の情報共有体制・連絡体制の強化

- ・本計画の着実な推進を図るため、役場や観光協会、商工会等による推進体制においては、情報の共有や施策の進捗管理を行う。
- ・エリア：村全体
- ・推進主体：村、観光協会、商工会

⑩-2. 各種調査の実施

- ・今帰仁村に訪れる観光客に対する「観光満足度調査」と村民が観光に対して考える「観光意識調査」のアンケート調査について5年後の見直し時期に実施を目指す。
- ・エリア：村内
- ・推進主体：村、観光協会



2. 重点プロジェクトの内容

本計画の基本理念は「自然と歴史ロマンに満ち躍動するむら」であり、3つの基本目標を1) 自然の摂理を学ぶ今帰仁、2) 歴史とロマン香る今帰仁、3) 老いも若きも躍動する今帰仁としている。

前項までに定められた具体施策のうち、基本理念と基本目標に向けて、重点的に取り組むべき施策を次の5つのプロジェクトに集約し、「重点プロジェクトと位置づけている。

重点プロジェクトは観光リゾート振興計画の柱となって、施策を推進していく。



重点プロジェクト1

保全ルールプロジェクト

本村には海や山川など豊かな自然が多く残り、これを求めて多くの観光客が訪れる。

今後は、地域の財産として村全体の貴重な自然環境を守り、村民が今までと同じように「自分たちの自然」を維持するとともに、観光客の求める自然景観を守り、持続可能な観光地を形成していけるよう保全ルールの作成を目指す。



展開施策

◆ 村内の開発抑制・観光ゾーニング

- ・土地価格の高騰により土地売買が進むなか、無秩序な開発による環境や景観の損失を防ぐ「開発抑制のためゾーニング」と、増え続けている観光客の受け皿と、住民の生活空間の住み分けを行う「観光ゾーニング」の検討を図る。ただし、規制や開発誘導については今後慎重に検討する。
- ・エリア：村内全域
- ・推進主体：村、観光協会、区

◆ 各ビーチの環境及び景観保全

- ・村民が心の拠り所として大切に守り親しんできたビーチなど、守るべき環境や景観の保全を目指し、多様な生物を育む豊かな環境を今後も維持していけるよう努める。
- ・エリア：村内全体のビーチ（村民の浜、ウップマビーチは除く）
- ・推進主体：観光協会、村、区

◆ 観光客のマナー啓発

- ・観光客によるゴミの散乱、ポイ捨て、騒音などの抑制を目的としたマナー啓発のため、看板やポスターの掲示物等の設置を図る。
- ・エリア：村内各観光スポット、各ビーチ周辺
- ・推進主体：村、観光協会、区

重点プロジェクト2

古宇利島プロジェクト（課題解決プロジェクト）

住民の生活環境や自然環境を守っていくための保全ルールの作成を図るとともに、古宇利島の集客力を活かし、村全体の経済活性化の拠点機能強化を図る。



展開施策テーマ① 環境保全

◆ 島内の開発抑制・観光ゾーニングの検討

・土地価格の高騰により土地売買が進むなか、無秩序な開発による環境や景観の損失を防ぐ「開発抑制のためゾーニング」と、増え続けている観光客の受け皿と、住民の生活空間の住み分けを行う「観光ゾーニング」の検討を図る。ただし、規制や開発誘導については今後慎重に検討する。

・エリア：古宇利島

・推進主体：村、区

◆ 観光客のマナー啓発

・観光客によるゴミの散乱、ポイ捨て、騒音などの抑制を目的としたマナー啓発のため、多言語表記の看板やポスター等の掲示物の設置を図る。

・エリア：古宇利島

・推進主体：村、観光協会

◆ 観光地保全・利活用のための財源確保

・観光客が増加する中、快適な観光地を維持するため、観光地の整備や清掃を行うための財源確保を検討する。（例：駐車場有料化、トイレ使用・掲示物有料化）

・エリア：古宇利島

・推進主体：村、観光協会

展開施策テーマ② 拠点機能強化

- ◆ 古宇利島の拠点機能の強化（観光案内所、駐車場、飲食、物販機能）
 - ・古宇利島に観光拠点機能として、観光案内所や駐車場及び農漁業との連携による地産地消の拠点として飲食機能や、直売所の機能強化する施設の整備を目指す。
 - ・エリア：古宇利島
 - ・推進主体：村、観光協会、商工会

- ◆ 外国人観光客の利便性向上
 - ・急増する外国人観光客に対し、飲食店の多言語メニュー掲載や食文化対策（ハラール対応・アレルギーなど）、キャッシュレスサービスなど利便性の向上を目指す。
 - ・エリア：古宇利島
 - ・推進主体：観光協会、商工会

- ◆ 周遊促進のための村内観光案内サービスを行う観光案内所の設置
 - ・古宇利島に訪れる人に村内の観光スポットへ周遊を促す年中無休で多言語対応可能な、観光危機管理を含めた総合観光案内所を設置する。また、周遊につなげることで分散化を促しオーバーツーリズムなどの課題対処を目指す。
 - ・エリア：古宇利島
 - ・推進主体：観光協会、村

- ◆ 古宇利島に集中する観光客の分散化を図る周遊ルートの作成
 - ・オーバーツーリズムが懸念される古宇利島の負担を減らすため、古宇利島から村内を周遊させるルート作成に努める。
 - ・エリア：古宇利島
 - ・推進主体：観光協会、商工会

重点プロジェクト3

歴史プロジェクト

世界遺産「今帰仁城跡」の入場者数増を図るため、満足度を高めるガイドの充実、イベントの開催、情報発信、多言語対策などにより、魅力がある運営を図る。



展開施策

- ◆ 今帰仁城跡の魅力及び満足度向上のため歴史ストーリーをもたせた案内実施
 - ・歴史を感じるストーリーを案内ガイドに盛り込み、IT技術を活用する等、今帰仁城跡の魅力を伝え、観光客の満足度向上を目指す。
 - ・エリア：今帰仁城跡
 - ・推進主体：村、観光協会、グスクを学ぶ会
- ◆ 今帰仁城跡の歴史を活用したイベント
 - ・今帰仁城跡の魅力を活かしたイベント企画に対し、場所の提供などサポートを行う。
 - ・エリア：今帰仁城跡
 - ・推進主体：各事業所
- ◆ 情報発信の強化
 - ・今帰仁城跡の歴史や案内、イベントなどについて歴史ロマンを活かした魅力ある情報発信を行い、今帰仁城跡のPRの実施を目指す。
 - ・エリア：今帰仁城跡
 - ・推進主体：観光協会、グスクを学ぶ会
- ◆ 外国人観光客への受入強化
 - ・外国人観光客に対して外国語による案内やマナー喚起を図る。また本部港に寄港が予定されているクルーズ船客のバスツアー誘致、誘客強化を図る。
 - ・エリア：今帰仁城跡
 - ・推進主体：グスクを学ぶ会、村、観光協会

重点プロジェクト4

観光関連事業者支援プロジェクト

村内の特産品を活かしたお土産品の開発に向けニーズ調査を行うとともに商品開発に取り組む地場産業の支援を行います。



展開施策

- ◆ 特産品・お土産品ニーズ調査
 - ・観光客に売れるお土産品の基礎調査として、ニーズ調査の実施を図る。
 - ・エリア：村全域
 - ・推進主体：観光協会、商工会
- ◆ 村内特産品を使用した商品開発
 - ・ニーズ調査内容を元に商品企画を行い、村内特産品を使用した商品開発を図る。地産地消の商品は付加価値が高く、地域経済活性化を目指す。
 - ・エリア：村全域
 - ・推進主体：商工会、事業者
- ◆ お土産品の情報発信
 - ・商品開発をした商品の PR のため、情報発信を行い、今帰仁村のお土産品としての周知を図る。
 - ・エリア：村全域
 - ・推進主体：観光協会、商工会、事業者
- ◆ 地場産業の事業支援
 - ・地元の事業者に対し、産業支援として商品開発に取り組もうとする企業に対し、観光客のニーズを踏まえた開発支援などに努める。
 - ・エリア：村全域
 - ・推進主体：商工会、各事業所

重点プロジェクト5

情報発信プロジェクト

村内宿泊施設・飲食店、体験事業者の情報をネットや観光案内所などから県内外へ発信し、今帰仁村への興味を促すきっかけづくりを目指します。

観光客の分散化のため既存観光スポットの魅力を新たな角度から伝えるなど、村内の観光資源を活かした情報発信に努めます。



展開施策

◆ 観光協会による情報発信

- ・ホームページや SNS など管理運営や情報発信メディアを使った宣伝など今帰仁村の観光客向け情報発信全般について、今帰仁村観光協会が一括して管理することを目指す。
- ・エリア：村全域
- ・推進主体：観光協会

◆ 展示会・商談会の参加

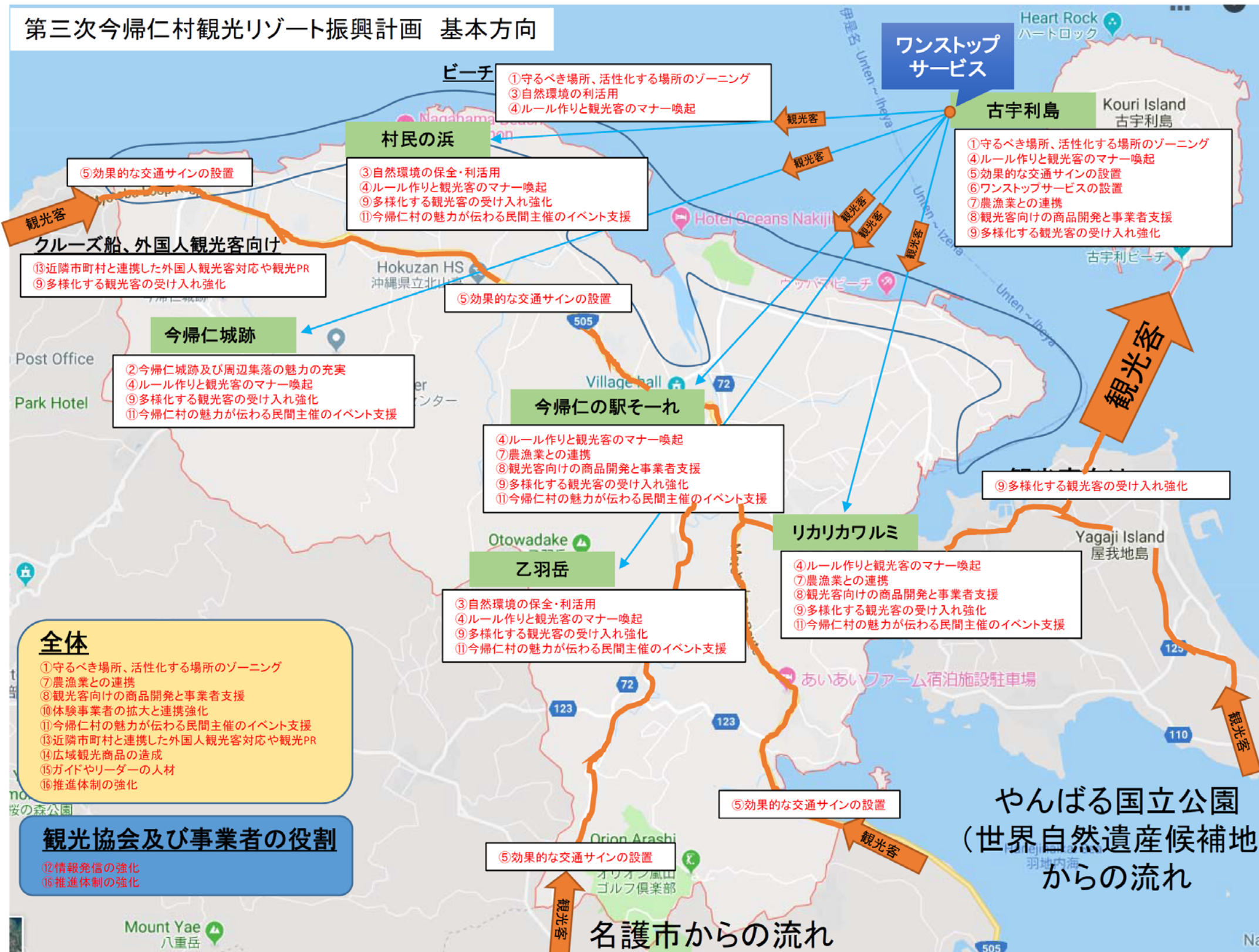
- ・国内外の旅行社向け展示会や商談会に対して、今帰仁村の PR のため観光協会が積極的に参加することを目指す。
- ・エリア：村全域及び県内外
- ・推進主体：観光協会、商工会

◆ ワンストップサービスの実施

- ・古宇利島に設置を予定する観光案内所において、村内の情報を集約するとともに、案内により村内各地へ周遊を促す。
- ・エリア：村全域
- ・推進主体：観光協会

3. 実施イメージ展開図

本部半島・美ら海水族館からの流れ



第4章 実現に向けた方策

1. 推進における役割

本計画の推進にあたっては、行政機関、関連団体、民間組織（観光事業者）をはじめ、地域住民や関連事業者、その他団体など、地域を構成する人たちの参画が不可欠である。それぞれが得意分野を活かし協働による観光の推進が、活性化による持続可能な観光を実現し活気のあるむらづくりの基盤になる。

①村の役割

本計画の推進にあたって、観光協会や商工会を中心とした推進体制を補助し、また財政的支援を行うなど総合推進的な牽引役として、参画する関係者をサポートする。また、関係者との情報交換を行い、効率的かつ効果的な事業の推進にあたる。

②観光協会の役割

観光協会は本計画の推進体制の中核として、観光を牽引する役割を担う。

③商工会の役割

商工会は観光協会と共に本計画の推進体制の中核として、観光を牽引する役割を担う。地域経済の活性化は観光振興と繋がっているため、商工会は前向きに取り組む。

④農漁業者の役割

農漁業者は、関連団体、民間組織（観光事業者）と連携し、農漁業産物の安全・安心を確保することで、「今帰仁村の信頼」や「村内観光の満足度」を高め、地産地消による経済活性化へつなげる重要な役割を担う。

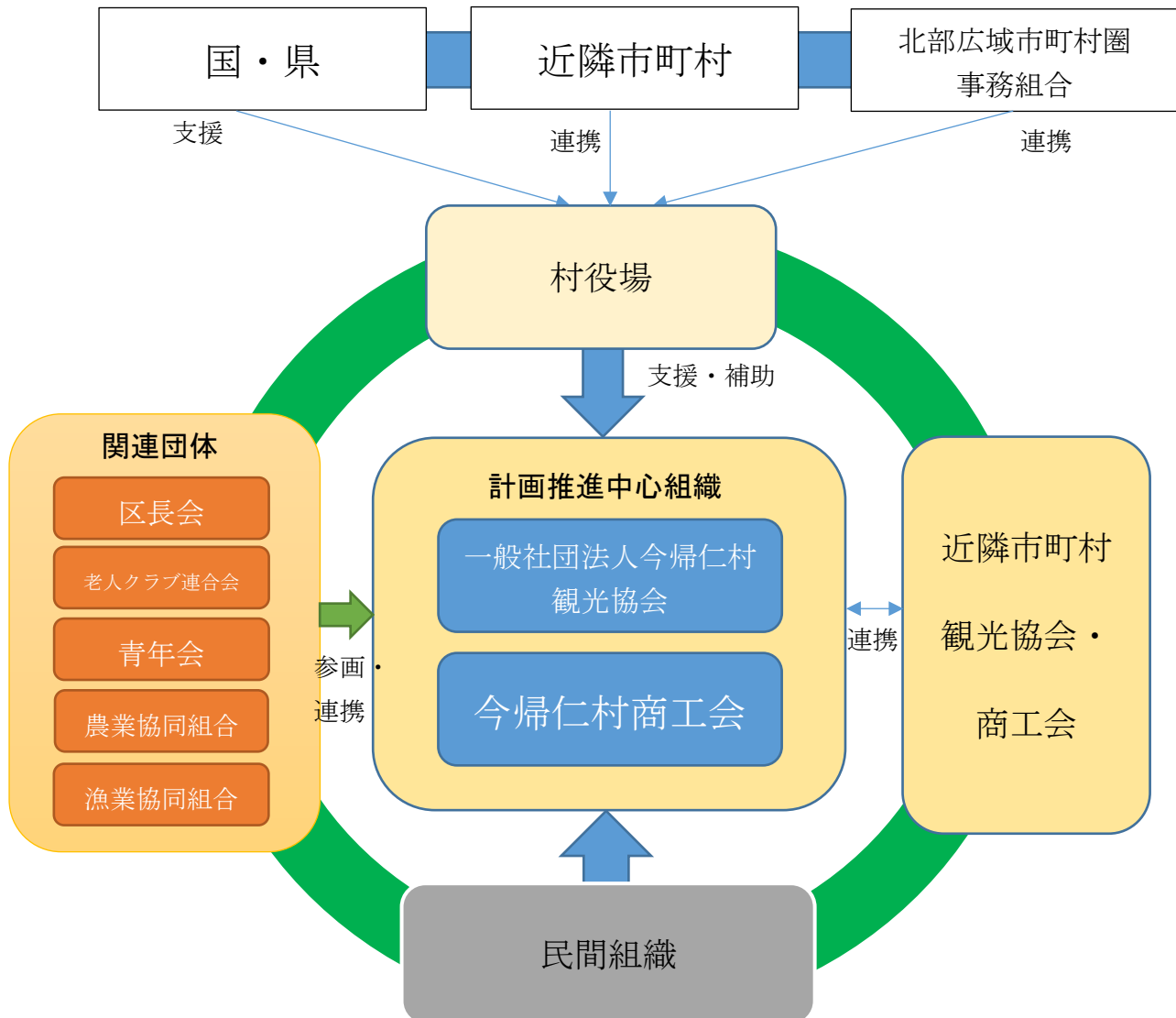
⑤区・地域住民の役割

地域住民は本計画の中心的な役割でもあり、今帰仁村の自然や文化に誇りを持つことで、村の観光資源を再認識し、自分たちのむらは自分たちで作るという参画意識を高める。

2. 推進組織体制

本計画の推進を確実なものとするため、今帰仁村観光協会と今帰仁村商工会を中心とし、本計画の推進組織体制を構築して進めます。

図 推進組織体制



参考

第三次今帰仁村観光リゾート振興計画策定委員会

1) 開催日程

	日程	場所	内容
第一回	平成 30 年 9 月 28 日 (金)	今帰仁村役場 会議室	①事業内容 ②各種アンケート調査内容
第二回	平成 31 年 2 月 14 日 (木)	今帰仁村役場 会議室	①各種アンケート調査結果報告 ②基本方向
第三回	平成 31 年 3 月 7 日 (木)	今帰仁村役場 会議室	①具体施策内容 ②数値目標 ③計画書のとりまとめ

2) 委員名簿

氏名	所属・役職	
大谷 健太郎	名桜大学国際学群観光産業教育研究学系 上級准教授	委員長
中原 茂仁	今帰仁村 副村長	副委員長
神山 康賢	今帰仁村老人クラブ連合会 副会長	委員
内間 繁樹	今帰仁村区長会 副会長	〃
上間 哲朗	今帰仁村青年会 会長	〃
玉城 仁	今帰仁村漁業協同組合 書記	〃
新田 哲也	JA おきなわ今帰仁支店長	〃
島袋 松男	今帰仁村商工会 会長	〃
玉城 喜次	今帰仁村観光協会 会長	〃
久田 哲史	今帰仁村経済課 課長	〃
宮里 政有	今帰仁村福祉保健課 課長	〃
与那 満	今帰仁村社会教育課 課長	〃

		
第 1 回策定委員会	第 2 回策定委員会	第 3 回策定委員会



第三次今帰仁村観光リゾート振興計画ワーキンググループ

1) 開催日程

	日程	場所	内容
第一回	平成 31 年 1 月 9 日 (水)	今帰仁村 保健センター	①事業概要 ②各種調査結果、課題、基本方向
第二回	平成 31 年 2 月 27 日 (水)	今帰仁村 保健センター	①具体施策 ②重点プロジェクト、③数値目標

2) ワーキンググループ名簿

氏名	所属・役職	
大谷 健太郎	名桜大学国際学群観光産業教育研究学系 上級准教授	座長
加力 謙一	農業生産法人 (株) あいあいファーム 取締役	副座長
本永 学	今帰仁村商工会 経営指導員	
玉城 和典	今帰仁村観光協会 事務局長	
杉本 達哉	あがいていーだ	
高橋 廣樹	魔神のつぼ	
宮里 俊吏	今帰仁村青年会	
又吉 演	合同会社バヌー	
宮城 寧	リゾートホテル・ベル・パライソ 支配人	
山城 恵一	今帰仁城跡管理事務所指定管理者 (株) 沖縄ダイケン	
大城 洋介	(有) 今帰仁酒造 代表取締役社長	
山内 響	総合型地域スポーツクラブ NPO法人ナスク	
日高 章	(株) 名護パイン園 古宇利オーシャンタワー 支配人	
鈴木 江美子	有限会社そーれの会 代表取締役	
謝花 隆太	橋の駅リカリカワルミ 代表者社員	
大城 辰夫	今泊区長	
宮城 博政	古宇利区長	
座間味 久美子	農業生産法人 (株) 今帰仁ごまみファーム 代表取締役	
我那覇 隆文	今帰仁村総務課 課長	
仲里 洋平	今帰仁村総務課 総務係	

	
第 1 回ワーキンググループ	第 2 回ワーキンググループ

課題抽出

第4次総合計画 後期基本計画

観光リゾート振興計画基本方向・施策

調査による課題抽出

①海と自然を活かした 観光地づくりの課題

- ・村民の浜、古宇利島、乙羽岳の自然景観の活用と各ビーチの保全
- ・今帰仁城跡の魅力向上
- ・村内各地への周遊促進
- ・古宇利島のオーバーツーリズム
- ・乱開発の抑制やゾーニング
- ・観光経済の活性化、若者の雇用創出
- ・飲食店不足
- ・お土産品の強化
- ・地産地消の体制づくり
- ・今帰仁の駅そーれ・リカリカワルミの活用促進
- ・満足度が高い体験型事業展開
- ・効果的なイベントの増加

②経済効果を促す体制 づくりの課題

- ・観光ニーズ調査の強化
- ・情報発信の強化
- ・高齢者対応
- ・多様な外国人対応
- ・近隣市町村の観光協会との連携強化（協定）
- ・観光協会の機能強化
- ・牽引する人材不足
- ・庁内の情報共有化
- ・観光計画推進体制の明確化

第四次総合計画後期基本計画の

地域資源を活かした観光振興

を目指す基本方針として

1. 滞在交流型・地域交流型

- ①観光ルートの明確化（観光地や観光資源の周遊型観光の促進等）
- ②地域特産品の販売、地産地消拠点の充実（観光ルート上での特産品の販売、拠点充実等）
- ③地域交流型の施策展開（滞在交流型観光の振興等）

2. 誘客・宣伝の強化

- ①各種イベント、交流事業などによる誘客の充実（来訪者の誘客宣伝、プロモーション強化等）
- ②観光客に対応した宣伝の強化（国内外の情報発信等）

3. 広域観光の振興

- ①北部地域との連携推進

第二次観光リゾート振興計画より継続すべき施策

- 人材育成・体制づくり

第三次今帰仁村観光リゾート振興計画は第4次総合計画後期基本計画を具体化させる計画内容です。

<基本方向>

- ①守るべき場所、活性化する場所のゾーニング
- ②今帰仁城跡及び周辺集落の魅力の充実
- ③自然環境の保全・利活用
- ④ルール作りと観光客のマナー喚起活用
- ⑤効果的な交通サインの設置
- ⑥ワンストップサービスの設置
- ⑦農漁業との連携
- ⑧観光客向けの商品開発と事業者支援
- ⑨多様化する観光客の受け入れ強化
- ⑩体験事業者の拡大と連携強化
- ⑪今帰仁村の魅力が伝わる民間主催のイベント支援
- ⑫情報発信の強化
- ⑬近隣市町村と連携した外国人観光客対応や観光PR
- ⑭広域観光商品の造成
- ⑮ガイドやリーダーの人材育成
- ⑯推進体制の強化

<施策内容>

- ①古宇利島及び各ビーチの景観保全
- ②村内のゾーニング
- ③観光地保全・利活用のための財源確保
- ④古宇利島の拠点機能の集約化（観光案内所、駐車場）
- ⑤古宇利島に集中する観光客の分散化を図る周遊ルートの作成
- ⑥観光スポットの受入強化
- ①今帰仁城跡の魅力及び満足度向上のため歴史ストーリーをもたせた案内実施
- ②周辺集落の魅力（歴史ロマンを感じさせるストーリー）発掘
- ③集落散策の案内PR強化
- ①村内自然海岸（ビーチ）の保全
- ②村民の浜、乙羽岳森林公園や運動公園など既存施設の活性化
- ①生活空間の保全ルール検討
- ②多言語表記によるマナー啓発の看板等設置
- ①活性化する場所へ誘導するサインの設置
- ①周遊促進のための村内観光案内サービスを行う観光案内所の設置と観光危機管理
- ①古宇利島の拠点施設整備（飲食、物販機能）
- ②今帰仁の駅そーれ、リカリカワルミの集客力強化
- ①お土産品のニーズ動向調査の実施
- ②村内特産品を使用した商品開発
- ③地場産業の事業支援
- ④飲食店の創業支援
- ①多様化するニーズへの対応
- ②外国人観光客の利便性向上
- ①既存体験事業者のPR強化と新規事業者の誘致
- ②体験事業者の情報共有化と連携強化
- ③体験滞在型観光の促進
- ①民間の創意工夫を活かした多様なイベント
- ②村の魅力を活かしたスポーツコンベンション
- ③今帰仁城跡の歴史を活用したイベント
- ①村内の情報を管理するホームページの充実（飲食情報の充実と連携）
- ②国内外の観光展示会や商談会の参加
- ③観光協会による一括管理した情報発信（継続的なSNS、メディアの活用等）の検討
- ①多言語表記のマナー啓発による連携
- ②広域観光によるPR
- ①満足度を高める広域観光ルートの作成
- ①今帰仁村地域学習の強化
- ②地域観光教育による人材育成制度の実施
- ③多言語対応の人材育成支援（英語、中国語等）
- ①役場・観光協会・商工会間の情報共有体制・連絡体制の強化
- ②各種調査の実施

<重点プロジェクト>

①保全ルールプロジェクト

村民が「自分たちの自然」を維持し、観光客の求める自然環境を守り、持続可能な観光地を形成するため、保全ルールの作成を目指します。

②古宇利島プロジェクト

住民の生活環境や自然環境を守るため、保全ルールの作成を図るとともに古宇利島の集客力を活かした古宇利島に経済活性化拠点機能強化を図ります。

③歴史プロジェクト

世界遺産「今帰仁城跡」の入場者数増を図るため、満足度を高めるガイドの充実、イベントの開催、情報発信、多言語対策など魅力ある運営を図ります。

④観光関連事業者支援プロジェクト

村内の特産品を活かしたお土産品の開発に向け、ニーズ調査や商品開発に取り組む地場産業の支援を図ります。

⑤情報発信プロジェクト

宿泊施設・飲食店、体験事業者や観光資源含めた情報をネットや観光案内所などから発信します。既存スポットの魅力新たな角度から伝えることで今帰仁村への興味を促し、村内各地への周遊につなげます。

第三次今帰仁村観光リゾート振興計画

平成31年（2019年）3月

発行：今帰仁村役場

〒905-0492 沖縄県国頭郡今帰仁村字仲宗根 219 番地

TEL：0980-56-2101



沖縄県今帰仁村